

水俣病審査会に内部対立

武内教授(熊大)が辞表

研究公表の制約は心外

水俣病を診定する水俣病審査会「知事の諮問機関」、会長貴田丈夫(熊大)教授で内部対立があり、審査会の有力メンバーである武内忠男教授(理理学)はこのほど専断知事あてに辞表を提出した。辞表は伊藤雄雄(熊大)衛生部長が預かり、同部長は四日武内教授に会って極力慰留に努めた。武内教授がもし正式に辞任すれば、今後の水俣病診定に支障が起きる心配もあり、成り行きが注目されている。

今後の診定に支障？



武内教授

診定結果は貴田会長がまとめて報告機関に報告する」との申し合わせがある(浮池氏の語)。そこで浮池氏は「武内教授がこの申し合わせを忘れたのではないかと思つて質問した」と言う。

一方、武内教授は「新聞報道は自分が積極的に発表したのではなく、取材に答えただけだ。それを公の席で責められた。また、自分の学問・研究の結果の公表を制約されるのは心外だ」と辞表を提出してしまつた。

審査会では貴田丈夫会長(熊大医学部小児科教授)、原田鶴彦教授(同小児科)、渡辺清比古教授(同内科)、武内忠男教授(同病理)の熊大側四人と天橋登氏(水俣市立病院長)、三島功氏(同副院長)、浮池正基氏(水俣市・野北郡医師会長)、小川融氏(チッソ水俣工場付属病院長)、伊藤雄雄氏(県衛生部長)、坂本泰昭氏(水俣保健所長)の六人、合計十人で構成されている。

水俣病であるかどうかは、病理と臨床の両面から診定される。生

存患者の場合は臨床面から診定されるが、渡辺シズエさんのような場合は病理解剖の結果がキメ手になる。「武内教授は最初から水俣病を手がけてきた人だし、余人をもつて代えがたい」(伊藤雄雄衛生部長の話)といわれるだけに、武内教授が審査会から抜けることは、審査会の一本の柱が抜けることになる。このため伊藤雄雄衛生部長は貴田会長とも連絡をとりながら、極力慰留に努めることにしている。

武内教授の話 学問・研究の結果の公表を制約されるのは困る。きょう(四日)伊藤衛生部長から辞表を撤回するよう語があつたが、現時点ではそれはできない。研究結果の公表が制約されないことを約束してもらえば考え直す余地がある。

浮池 水俣市・野北郡医師会長の話 二十九日の審査会で、私は武内教授を責めるつもりはなかつた。私の発言のニュアンスがちょっと違つたのだらう。問題を招いたことについて、次の審査会で釈明するつもりだ。

伊藤雄雄衛生部長の話 武内教授にやめられると、審査会が困る。なんとしてでも辞表を引つ込めてもらうよう努力する。

コトの起こりは、さる五月二十九日に熊本市の水前寺善清会館で開かれた第十五回審査会である。審査会はこの日、野池正基氏(水俣市立病院長)の妻で二月に死したシズエさんを含む五人を真性水俣病と診定して発表したが、これより先、武内教授はシズエさんを病理解剖の結果、水俣病に間違いないと診断、そのことが四月末各紙に報道された。このため審査会の一部には、武内教授の「独走」を不満とする空気があつた。

この審査会の席上、委員の一人である浮池正基氏(水俣市・野北郡医師会長)が武内教授に「新聞発表の経緯」を質問、これに同教授が憤つた。

審査会には「水俣病かどうかの